



平成 27
年度版
2015

知りたい！

ひと

まち

自然



印西の環境



平成 27 年度版 印西市環境白書 概要版

千葉県
印西市



地球温暖化 ってなんだろう？

太陽から地球に降り注ぐ日射は地表面を温めますが、その大部分は赤外線となって宇宙に放出されます。この時、放出される赤外線の一部を大気中のガスが吸収することで地表付近の温度が上昇する現象が「温室効果」で、このような働きをするガスを「温室効果ガス」と呼びます。

温室効果ガスの大部分を占めるのが二酸化炭素です。産業革命以降、化石燃料の使用に伴って大気中の二酸化炭素濃度が上昇し、地球の平均気温が上昇しつつあります。

地球温暖化に関する 最新の科学的知見

- 大気中の二酸化炭素濃度は、産業革命前と比較して 40%上昇
- 1880 年から 2012 年の間に、世界の平均地上気温は 0.85℃上昇
- 今世紀末の世界平均気温は、0.3～4.8℃上昇すると予測

出典）IPCC 第 5 次評価報告書より

温暖化が進行すると、気温の上昇だけでなく海面上昇や食糧不足など様々な問題が起こります。こうした問題は、自然環境や人々の生活・健康に大きな影響を及ぼします。

地球温暖化の影響の例



海面上昇による高潮、海岸浸食

海水の熱膨張、南極やグリーンランドの氷河融解等により、海面が上昇しています。台風による高潮や浸水、沿岸域の氾濫、海岸侵食による被害の増加など、沿岸や低平地、小島嶼に住む人々の暮らしに大きな影響を与えます。



生物・生態系の異変

生物の分布の変化、生物多様性の低下、絶滅の危機にさらされる生物種の増加などが予測されています。また、病気を媒介する生物の分布が変化することで、マラリアなど熱帯性の感染症の発生範囲が広がることも懸念されています。



食糧生産量の低下

気候変動により主要穀物の小麦やトウモロコシ、米の収量低下が予測されています。また、気候の変化に加えて、病害虫の増加により穀物生産が大幅に減少し、世界的に深刻な食糧難を招く恐れがあります。

日本でもゲリラ豪雨やサクラ開花日の早期化など、既に温暖化の影響が現れています。

地球温暖化対策 に取り組もう！

温室効果ガスの排出量を減らすために、私たちが身近にできることはたくさんあります。例えば、「日ごろから節電・節水を心掛ける」。これも立派な温暖化対策です。

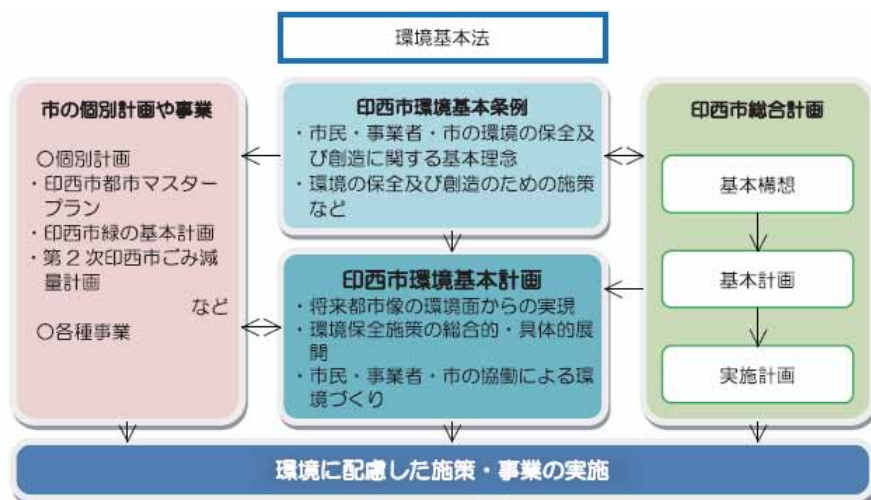
環境省によると、家庭部門の温室効果ガスの排出量は増加傾向にあります。温暖化対策を進めるためには、一人ひとりが身近なところから日々の行動を見直すことが重要なのです。

「節電・節水」は、地球だけでなく私たちのお財布にもやさしいのがうれしいですね。

他にも、「公共交通機関を利用する」「グリーンカーテンを作る」など、身近にできることをみんなで考えて、行動しましょう。

位置づけ

印西市環境基本条例に基づき、本市の良好な環境づくりに向けての基本的な考え方、目標及び達成手段を示すもので、計画期間は平成 25 年度から平成 33 年度までの 9 年間です。



印西市が目指す「将来環境像」と、達成のための「5つの基本目標」

将来環境像

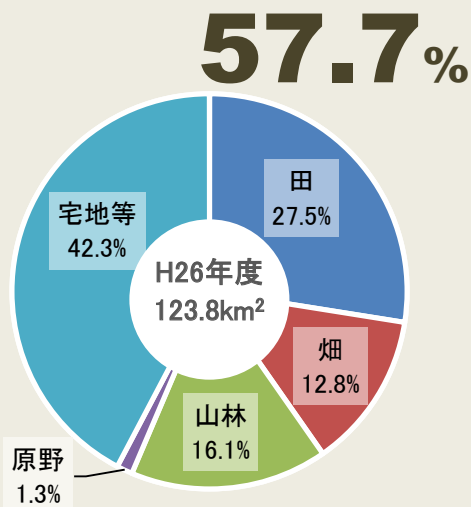
「ひと まち 自然」が調和し
豊かで安心できる環境で暮らせるまち いんざい

基本目標 1 〔自然環境〕	緑や水辺が身近に感じられる、自然と共生するまちを目指して	・・・2 ページ
基本目標 2 〔生活環境〕	安心・安全に暮らせる、環境に負荷を与えないまちを目指して	・・・4 ページ
基本目標 3 〔都市環境〕	都市としての魅力があふれる、快適なまちを目指して	・・・6 ページ
基本目標 4 〔地球環境〕	低炭素社会の構築に向けた地球環境に負荷を与えないまちを目指して	・・・8 ページ
基本目標 5 〔人づくり〕	環境配慮行動の実践者を拡大し、みんなで環境を育てるまちを目指して	・・・10 ページ

緑や水辺が身近に感じられる、 自然と共生するまちを目指して

土地利用の状況

● 田、畑、山林、原野の割合



印西市は農地や樹林地が多く、里山の緑に恵まれています。宅地開発や農家の後継者不足による緑の減少が心配されています。

農地の保全

農業は印西市の主要産業であり、季節ごとの田園風景は市を代表する景観を形作っています。

印西市でとれた野菜や果物などの農産物を市内で消費する地産地消を進めるため、市では農産物のブランド化にも力を入れています。平成 26 年度は印西市のマスコットキャラクター「いんザイ君」がプリントされたバーコードシールを作成し、「印西市産」農産物を PR しています。



いんザイ君が印西市産の農産物を PR ▲

印西市の生きもの

市内には、植物 803 種、動物 539 種が確認されています。中には、絶滅が危惧されている重要な種も見つかっています。

ギンイチモンジセセリ ▶



◀ サシバ

クマガイソウ ▶



◀ カワセミ

● 生きものの確認種数

分類群		確認種数(重要種)	
植物		803	(36)
動物	哺乳類	9	(1)
	鳥 類	102	(53)
	爬虫類	11	(10)
	両生類	6	(4)
	昆虫類	387	(29)
	魚 類	24	(10)

平成 23 年度自然環境調査

< 有害鳥獣って何が問題なの? >

人や農産物などに被害を与える鳥や動物を、一般に有害鳥獣と言います。市内でも動物による水田の掘起しや野菜の食害、住宅や納屋などへの侵入といった被害が発生し、年々増加しています。

このため、有害鳥獣の管理は重要な課題です。市では毎年ハクビシン、タヌキ、イノシシの捕獲を行っています。



▲ 捕獲されたハクビシン

印西市の里山

市内には人と自然との長年の関わり合いによって形成されてきた里山が多く残されています。

この里山は樹林地、田畑、草地、水辺などいろいろな環境が混ざりあって、豊かな生態系を育む場としても注目されています。

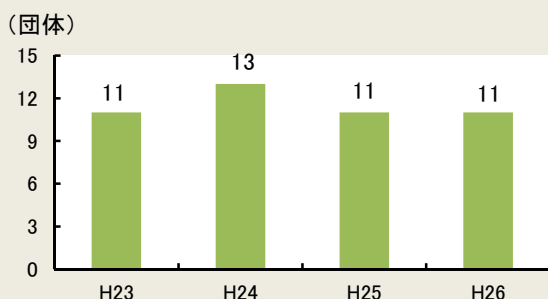


◀ 人の暮らしと
自然が調和
した風景

市では、市民参加による里山保全活動の充実を図るため、市民活動団体が実施する里山関連の行事を支援しています。

平成 26 年度の市内の里山保全活動団体数は 11 団体、里山関連イベントの開催数は 7 回でした。

● 里山保全活動団体数の推移



◀ 草深の森

自然とのふれあい

「いんざい自然探訪」は、子どもから大人まで楽しみながら環境を学ぶことができる自然観察会です。平成 26 年度は草深の森や里山などで 3 回開催し、のべ 60 人にご参加いただきました。



▲ いんざい自然探訪 少人数でじっくり里山コース

印西市は湖沼やその支流などたくさんの水辺に恵まれたまちです。

市では、水辺とのふれあいの機会を提供するため、県や流域市町と協力して水辺環境保全のためのイベントや河川の清掃活動を開催しています。印旛沼では「印旛沼流域環境・体験フェア」を実施しているほか、手賀沼では手賀沼流域フォーラム等のイベントや、市民参加による湧水調査及び水質・水生生物調査を実施し、市民の皆さんとともに良好な水辺環境の維持に努めました。



▲ 市民参加で水の中の生きものを調査しました

アクション！

緑や水辺を守り、自然と共生するために・・・

- “百聞は一見にしかず” 近くの里山や水辺に親しみます。
- 自然にやさしい有機栽培や、低農薬の農産物及び地産地消の商品を購入します。
- 生きものたちが生息している里山や生態系を知り、それらを残します。



安心・安全に暮らせる、 環境に負荷を与えないまちを目指して

大気環境の保全

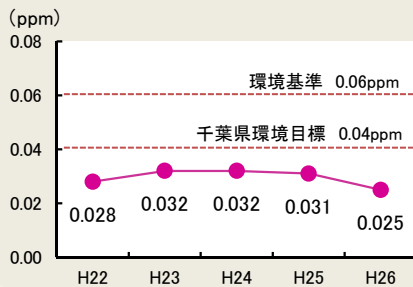
● 大気汚染物質濃度（高花測定局）

光化学オキシダント

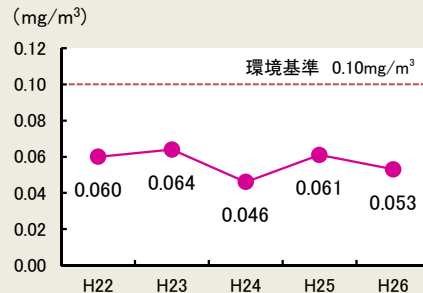
環境基準超過日数

83 日

二酸化窒素 (NO₂)

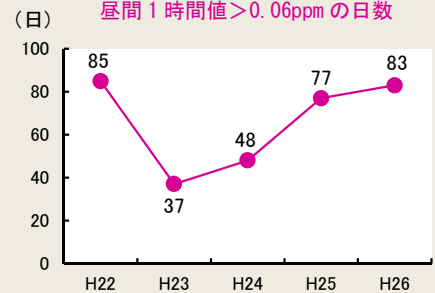


浮遊粒子状物質 (SPM)



光化学オキシダント

昼間 1 時間値 > 0.06ppm の日数

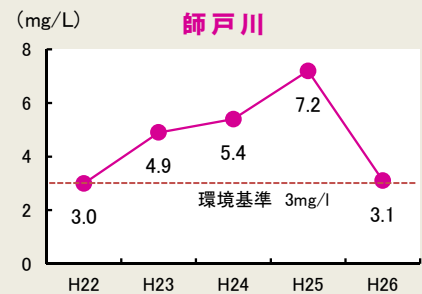
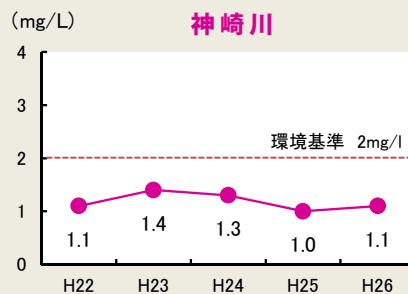
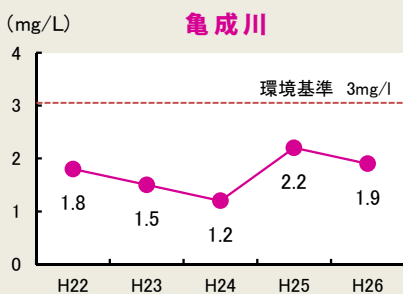


千葉県が設置する一般環境大気測定局（高花地区）では、大気質の測定を実施しています。二酸化窒素（NO₂）や浮遊粒子状物質（SPM）は継続的に環境基準を達成している一方、光化学オキシダントは環境基準を達成していません。印西地域では、平成 26 年度に 4 回の光化学スモッグ注意報が発令されました。市では大気環境を改善するため、工場・事業場への指導やエコドライブの普及に取り組んでいます。

水環境の保全

● 河川の BOD 濃度

師戸川で環境基準を超過



市では、市内 9 河川で年 4 回の水質測定を行っています。環境基準が設定されている 3 河川の BOD 濃度は、亀成川、神崎川では環境基準を達成しています。師戸川では平成 23 年度以降環境基準の超過が続いていますが、平成 26 年度は前年度に比べ値が低下しました。

皆さんの家庭からの生活排水は、水質汚染の原因の一つとなります。河川の水質を改善するために、公共下水道の整備や整備済み地区の水洗化、合併処理浄化槽の設置補助に取り組んでおり、普及率は上昇しています。

● 下水道普及率

● 合併処理浄化槽普及率

80.9%

80.6%

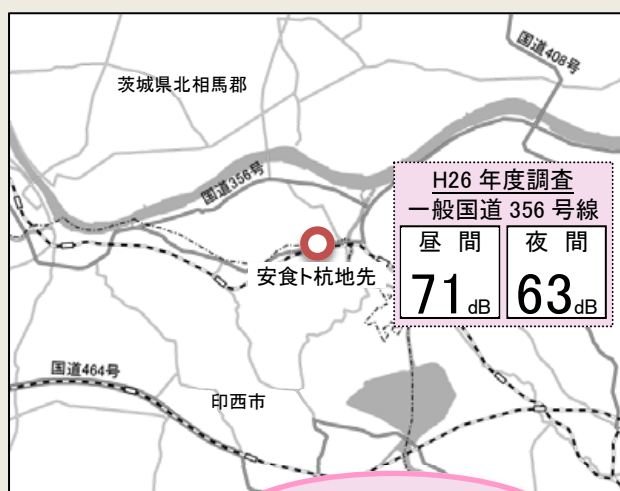


騒音・振動を防ぐ

市では、主要幹線道路において定期的に道路交通騒音の調査を実施しています。

平成 26 年度の道路交通騒音の面的評価は国道 356 号線、主要地方道鎌ヶ谷本埜線、一般県道千葉臼井印西線、印西印旛線を対象として実施しました。このうち、国道 356 号線では騒音レベルが環境基準を超過していたことから、関係機関に調査結果を報告しました。

● 道路交通騒音の基準超過地点



「70dB の音」は、
電話のベルくらいだよ



印西市環境キャラクター
エコネ



▲ 定期的に空間線量率を測定しています

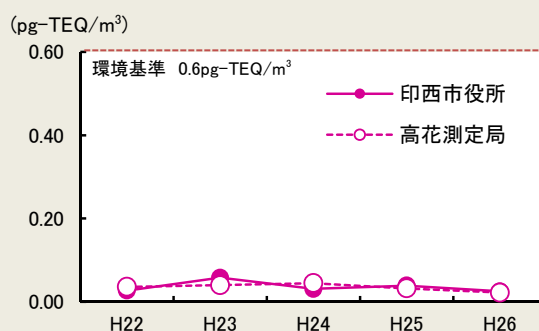
有害物質のリスク

身のまわりにどんな化学物質があるのか、またどんなリスクがあるのかを知ることは化学物質を上手に利用するために必要な知識です。例えば、殺虫剤や洗剤などは用法・用量に注意しないと、知らぬ間に体の中に取り込んでしまう危険性があります。

市では、大気中のダイオキシン類濃度を定期的に調査しており、平成 26 年度はいずれも環境基準を達成しました。

● 大気中のダイオキシン類濃度

環境基準達成



放射性物質対策

放射性物質による環境汚染に対しては、印西市放射性物質除染実施計画に基づき、公園や民有地、道路など子どもの生活空間から優先的に除染を行っています。

また、市内 173 箇所の公共施設で空間線量率の測定を行い、結果を広報やホームページ等で公表しています。なお、平成 26 年度は、国が示す基準値 0.23 μ Sv/h を超える箇所はありませんでした。

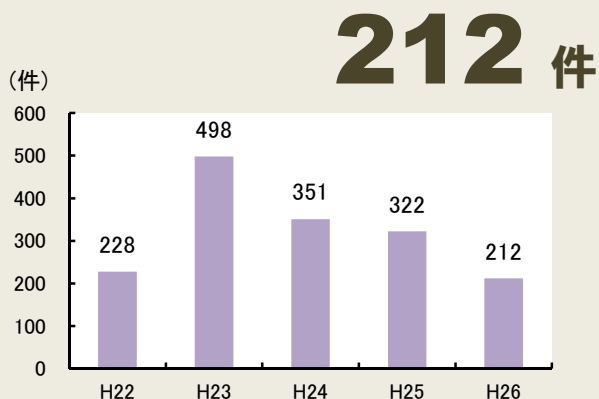
アクション！

環境に負荷を与えず、安心・安全に暮らすために・・・

- 低公害車を購入・使用するよう努め、環境にやさしい運転（エコドライブ）の実践に努めます。
- 節水を心がけるとともに、食器等を洗う際には、
油分や汚れをふき取り汚水を出さないように努めます。
- 放射線に関する正しい知識を得て、行動します。

不法投棄の状況

● 不法投棄発生件数



平成 26 年度に市が把握した不法投棄発生件数 212 件のうち、49 件は市民からの通報によるものでした。市民の皆さんによる監視の目が不法投棄の抑止・発見につながっています。

212 件の内訳をみると、家庭ごみが最も多く (72 件)、家電製品や家具なども多くなっています。

市では、パトロールの実施や監視カメラの設置により、不法投棄の防止に努めています。

< H26 不法投棄内訳ランキング >

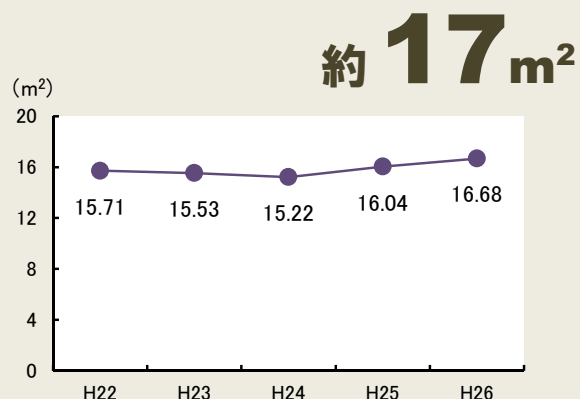
- 1 位 家庭ごみ・・・72 件
- 2 位 家電製品・・・55 件
- 3 位 家具・・・14 件



▲ 不法投棄されたゴミ

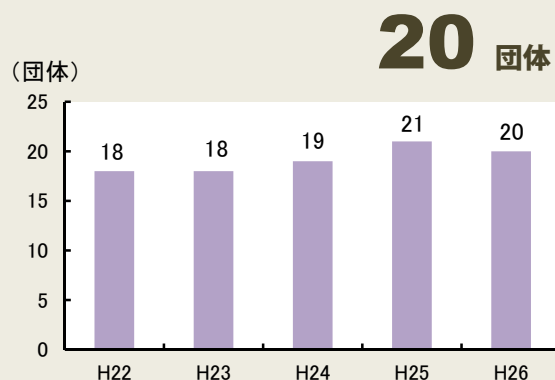
緑あふれるまち

● 1 人当たりの都市公園面積



市内には、総合公園から都市緑地まで 145 箇所の公園があります。市民 1 人当たりの都市公園面積は約 17 m² で、千葉県全体 (約 6m²)、国全体 (約 10m²) を大きく上回っています。

● 美化協定締結団体数



市では、公園美化活動を行う団体に対して、活動に必要な物品や用具を貸与・支給するなど、各種支援を実施しています。平成 26 年度の美化協定締結団体数は 20 団体となりました。

また、市民の皆さんのご家庭での緑化推進を支援するため、市の花であるコスモスの種の配布を行っています。



環境美化活動

市では、環境美化意識の高揚を図るため、市民団体や事業者と協力して「ゴミゼロ運動」、「クリーン印西推進運動」などの活動を実施しています。平成26年度の参加者数はのべ100,294人にのぼり、合計63,920kgのごみが回収されました。

ポイ捨てをなくし、まちを美しく保つためには、一人ひとりが美化意識を向上させることが重要です。市では、重点区域での啓発や、指導員によるパトロールを実施し、禁止行為の指導件数は2,076件にのぼりました。



▲ ゴミゼロ運動 大人も子供もみんなでごみ拾い

歴史と文化

市では、市内の遺跡や史跡などの文化財を守るだけでなく、観光事業とも連携して地域の歴史・文化の周知に努めています。市内の指定文化財は、国指定文化財6件、県指定文化財17件、市指定文化財25件、登録文化財1件の合計49件となっています。

平成26年度は木下貝層の貝化石採集観察会に23人が参加したほか、市内小学校5校で収蔵民具の出前講座を、印旛歴史民俗資料館で企画展を開催しました。

また、市史への理解や市史編さん事業の状況を広く伝えるため、市史編さん講演会「中世の社寺運営と印西」を開催し、61人にご参加いただきました。



▲ 収蔵民具の出前講座

< 印旛歴史民俗資料館ってどんなところ？ >

印旛歴史民俗資料館は、印西市の各種歴史資料の調査研究・収集・保管・活用等の事業を通じて市民の教育、学術及び文化の発展に寄与している施設です。常設展示のほかに企画展、体験教室、講座等を行っています。



▲ 印旛歴史民俗資料館



アクション！

美しく、快適なまちにするために…

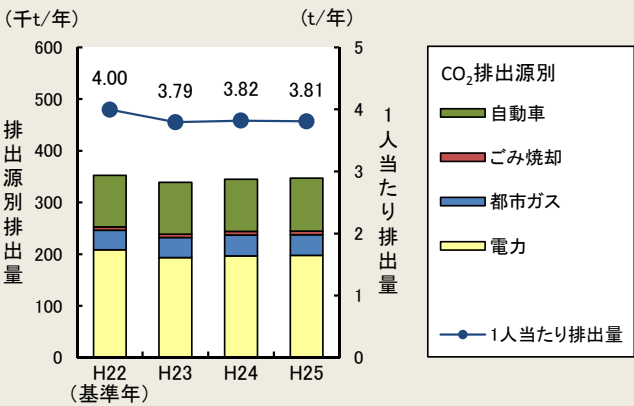
- ごみやたばこのポイ捨ては絶対にせず、ペットの散歩の際にフンなどは必ず持ち帰ります。
- 「ゴミゼロ運動」「クリーン印西推進運動」など地域の清掃活動に積極的に参加します。
- 地域の祭りや伝統行事に積極的に参加します。

減らそう！CO₂

年間二酸化炭素（CO₂）排出量

市民1人当たり

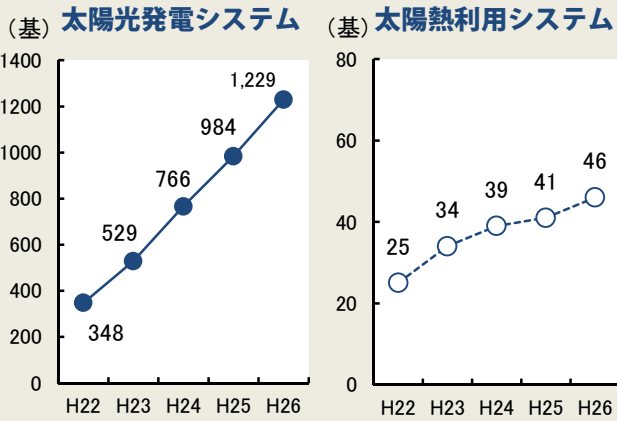
3.81t



再生可能エネルギー設備の補助基数（累計）

1,229 基

46 基



平成 25 年度の印西市における二酸化炭素（CO₂）排出量は、347,274t-CO₂ で、市民一人あたりの排出量は 3.81t-CO₂ となりました。基準となる平成 22 年度と比較すると、わずかに減少しています。

補助対象の住宅用省エネルギー設備

設備の種類	概要
太陽光発電システム	太陽の光で発電する設備
太陽熱利用温水器	太陽の熱でお湯を作る設備
家庭用燃料電池システム（エネファーム）	水素と酸素で発電し、同時にお湯を作る設備
定置用リチウムイオン蓄電システム	電気を蓄える設備
エネルギー管理システム（HEMS）	家電や電気設備とつないで、エネルギーを管理する設備
電気自動車充電電設備	電気自動車を充電、また、電気自動車から住宅への電力供給が可能な設備

※対象となる設備には要件があります。

市では、一般家庭における再生可能エネルギーの利用を促進するため、平成 17 年度から太陽光発電システムや太陽熱利用システムの設置補助を実施しています。平成 26 年度の補助件数は、太陽光発電システム 245 件（累計 1,229 件、出力合計約 5,060kW）、太陽熱利用システム 5 件（累計 46 件）となりました。

また、平成 25 年度から省エネ設備等に補助を拡大し、家庭用燃料電池システム（エネファーム）98 件、定置用リチウムイオン蓄電池システム 14 件、エネルギー管理システム（HEMS）42 件、電気自動車充電電設備 1 件を補助しました。

市の施設では、再生可能エネルギーの率先的な導入を推進しており、市役所屋上などに太陽光発電システムを設置しています。牧の原小学校には 45kW の太陽光発電システムを設置しました。

公用車への低燃費車・ハイブリッド車の導入やグリーンカーテンの設置（66 施設）など、市では率先して省エネルギー化、二酸化炭素削減の取り組みを進めています。



◀ 牧の原小学校

太陽光パネル



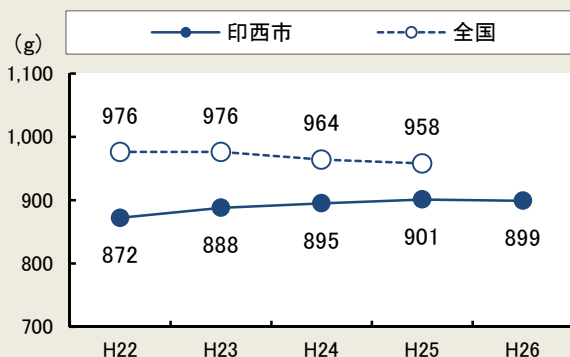
◀ 小林コミュニティプラザ

グリーンカーテン

印西市のごみ

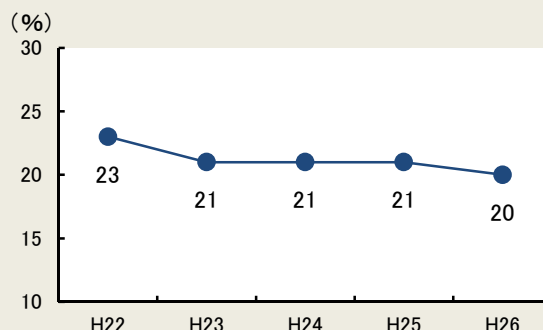
● 1人1日当たりのごみ排出量

899g



● ゴみの資源化率

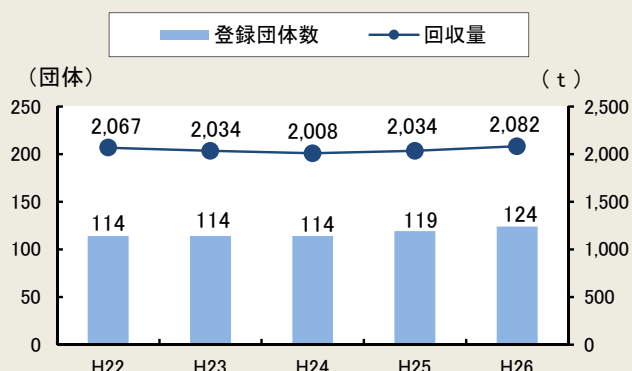
20%



平成 26 年度の 1 人 1 日当たりのごみ排出量は 899g となり、前年の 901g から 2g 減少しました。総資源化率は 20% で減少傾向となっています。

ごみを減らす取組み

● 有価物集団回収登録団体数と回収量



◀ ごみの分別方法の解説



ごみの分別体験 ▶

ごみの資源化や適正処理も重要ですが、最も優先されるべき取り組みは「ごみを出さないこと」です。市では、広報誌やホームページを通じて情報発信を行っているほか、「ごみ減量・リサイクルに関する出前講座」、「ごみは宝 リサイクル施設見学会」、「ごみの分別が大事店」などの事業を実施しました。また、平成 26 年度は講師を招き、ごみ減量を学ぶ講演会を 1 回開催しました。

また、資源として再利用できる有価物を集団で回収している町内会や子ども会、高齢者クラブなどの団体に対する支援を実施しています。平成 26 年度の有価物集団回収の登録団体数は 124 団体、回収量は 2,082t となりました。

アクション!

地球環境を守るために…

- 「環境家計簿」などを通して電気ガス、水道、ガソリンなどの省エネルギーに努めます。
- 外出の際には徒歩や自転車、公共交通機関を利用するよう努めます。
- 不用品を購入しないように努め、商品をできる限り長く使用します。

環境配慮行動の実践者を拡大し、 みんなで環境を育てるまちを目指して

学習機会の充実



◀ 里山観察会



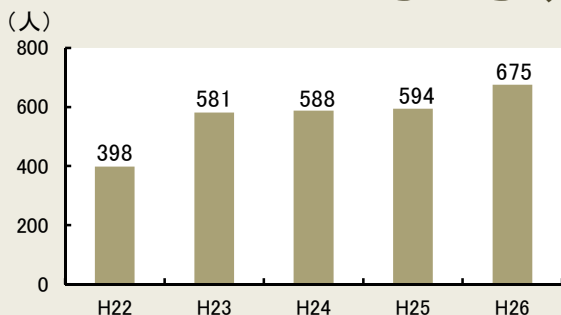
わら細工
体験 ▶

環境問題解決の第一歩は、一人ひとりが環境について学ぶことです。市では、教育センターや公民館などで里山観察会や自然散策、各種講座などを開催し、多くのご参加をいただきました。

将来の印西市を担う子供達への環境教育の推進を図るため、学校における環境教育の充実を図っています。学校支援ボランティア制度の登録数は増加傾向にあり、平成26年度は675人となりました。

● 学校支援ボランティアリスト登録数

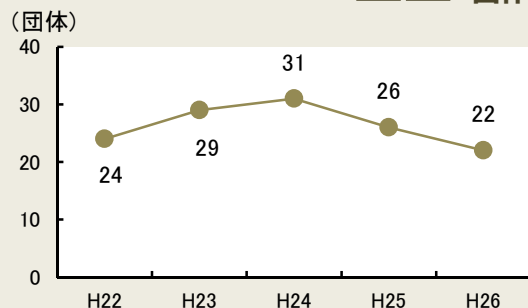
675 人



行動してみよう！

● 環境活動団体数

22 団体



市では、環境保全活動を行う NPO など市民活動団体への支援を行っています。市で把握している環境活動団体数は22団体となっています。

もっと！知りたい人は

「平成27年度版 印西市環境白書 本編」
「印西市環境基本計画」
をご覧ください。

行動してみたい人は

「印西市環境行動指針」
日常生活の中の環境配慮行動を掲載しています。
「広報いんざい」
環境に関するイベントや講座開催をお知らせ。

発行：印西市

編集：環境経済部 環境保全課

〒270-1396 千葉県印西市大森 2364-2

TEL: 0476-42-5111

<http://www.city.inzai.lg.jp/>

トップ → 暮らしの情報 → ごみ・環境・ペット

みんなで環境を育てるために・・・

- 環境に関するイベント、施設見学等に積極的に参加し、環境の現状を理解し学びます。
- 環境に関して得た情報を家庭や子どもたちと話し合い、実践につなげます。